

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	和歌山大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	ワカヤマダイガク
	大学等名1(代表大学等)※学校コード	F130110109356
	大学等名1(代表大学等)学校本部所在地	和歌山県
	大学等名1(代表大学等)学校種別	国立大学
	科目名	地域協働演習Adv.
	学部・研究科等名	全学部
	担当教職員名・役職	佐藤祐介,木村亮介等
	受講者数実績年度	令和2年度
	受講者数※インターンシップ参加者数	20
	受入企業等数	18
	受入企業等名	古都里、(株)紀州まちづくり舎、南海電気鉄道(株)和歌山支社、(株)sasquatch、紀ノ川農業協同組合、アルテリーヴォ和歌山、他
	インターンシップの分類	1.長期(概ね1か月以上)インターンシップ
9.中小企業でのインターンシップ		
10.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ		
上記以外のインターンシップの分類(記述欄)		
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事
		2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容	
1-3.上記回答内容に関する詳細	「わかやま未来学副専攻」プログラムの一環として、それまでの実践的学習成果を活かし、地域の企業等の課題解決・事業推進に貢献するプロジェクトに取り組む。自立的・主体的に、社内外の関係者と協働しながら、ただの体験ではなく「仕事」として成り立つレベルで実際の業務に携わる。	
要素②	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	6.当該インターンシップは、選択科目として実施している
		7.当該インターンシップは、授業期間中に実施している
		8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容	
2-3.当該インターンシップを実施する年次	大学 学部3年	
2-4.当該インターンシップで付与される単位数	大学 2単位	

2-5.上記回答内容に関する詳細	地域の未来を切り拓く人材育成を目指した、一連の「わかやま未来学副専攻」プログラムの最終段階に位置付け、それまでの実践的学習の成果を活かす集大成となることを意図している。地域の企業等の実際の業務的課題に取り組むことにより、地域の各現場で課題を解決できる実務能力を習得する期待している。当副専攻が目指す人材像を整理したルーブリックを含め、その位置付け・目的等について当副専攻履修者に対し、履修前段階から説明している。
3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
3-2-1.該当する事前学習の内容	<p>1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている</p> <p>2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている</p> <p>3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている</p> <p>4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している</p>
3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容	
3-2-2.該当する事後学習の内容	<p>1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている</p> <p>2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている</p> <p>3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている</p>
3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容	
3-2-3.該当するモニタリング	3.その他
3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容	適宜電話・メール・打合せ等により学生と企業のサポートを行っている。
3-3-1.事前学習の内容に関する詳細	「わかやま未来学副専攻」において、1年次に地域の課題を理解する科目で学習を行い、2年次に1年間かけて地域の各課題に応じた実践的PBLを通じて地域の課題に取り組むために必要な知識・マインド・スキルを醸成する。それに加えて一般的なインターンシップと同様のマナー、目標設定等の事前学習を実施している。
3-3-2.事後学習の内容に関する詳細	大学において学生が実習で学んだことをポスターセッション形式で発表（教室で実施できない場合は動画発表）。さらにCOC+事業連携校と共に、同事業連携機関等に対して、インターンシップを含む副専攻での学習成果をプレゼンテーションする。
3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細	当副専攻の各テーマ担当教員やコーディネイト教員が、適宜学生と企業等の状況を確認しサポートを行っている。

要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
		3.インターンシップによる到達度を具体的に示した評価基準（例：ルーブリック）を整備し、学生及び教員で共有している
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み	
4-3.上記回答内容に関する詳細	「わかやま未来学副専攻」独自のルーブリックに基づき、知識面（域内知識・域外知識）、マインド面（当事者意識・チャレンジ精神）、スキル（企画力・実行力・聴く力・伝える力）の各観点で、2年次から自己評価を積み重ねている。インターンシップ前後での自己評価、インターンシップ後の実習先評価、教員評価により、成長の可視化とフィードバックを行っている。	
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	4.その他
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合	
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合	
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合	
	5-2.「4.その他」の実施期間の内容	実習日が必ずしも連続しているとは限らないが、実施期間としては5日以上継続して実施しており、合計して60時間以上となっている。
	5-3.上記回答内容に関する詳細	実習期間は概ね2～10ヶ月程度。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してプログラムを設計している
		2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している
		3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている
		4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
		5.企業等と協働して作成した評価シートを活用し、具体的な効果を数値化して測定している
6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容		
6-3.上記回答内容に関する詳細	「わかやま未来学副専攻」及び「地域協働演習adv.」の狙いや位置付け、ルーブリックについて実習先に理解していただいたうえで、共にプログラムを設計している。実習先の一部は2年次のPBLから共にプロジェクトを実施し、学生を育成している。ルーブリックに基づいて、実習後に評価をしていただいている。	

	7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	https://web.wakayama-u.ac.jp/syllabus/00/00_R1001006_G1_ja_JP_133.html
問い合わせ先	大学等名	和歌山大学
	担当部署名	キャリアセンター
	担当者役職名	講師
	担当者氏名	木村亮介
	電話番号	073-457-7934
	メールアドレス	rkimura@wakayama-u.ac.jp